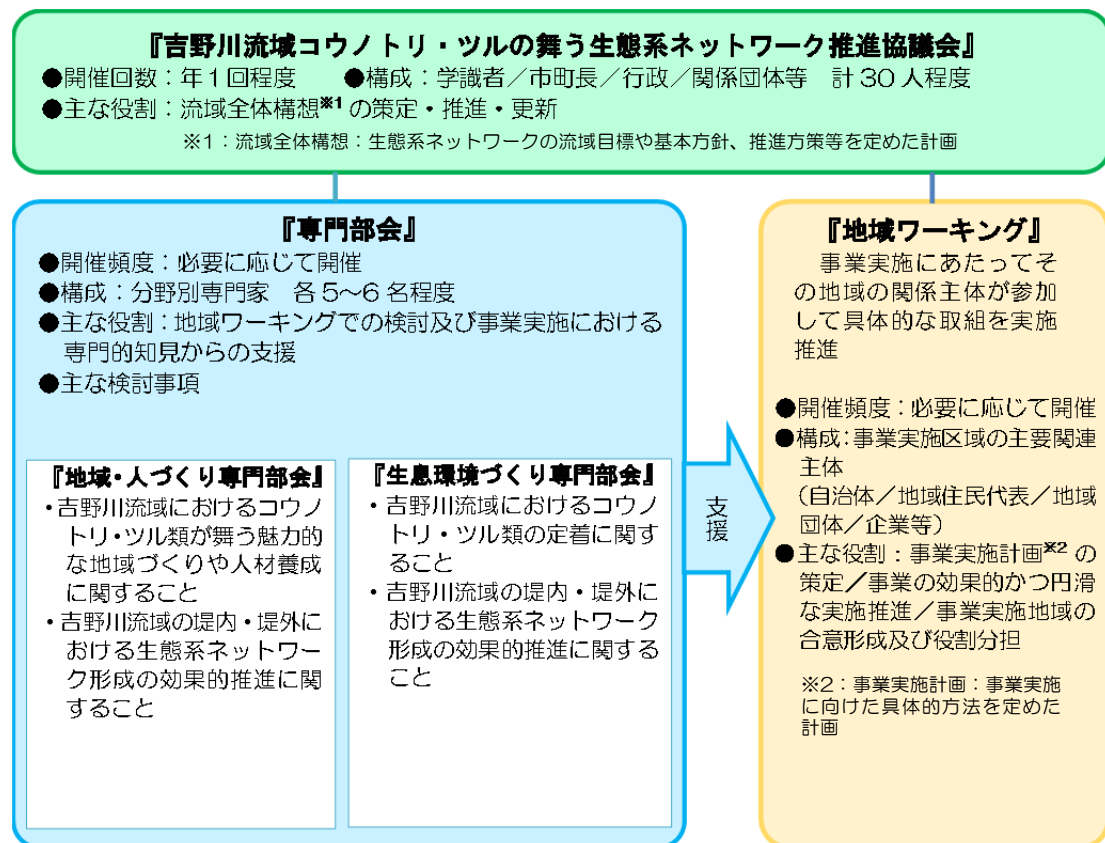


四国圏域の各流域・地域での生態系ネットワークの推進状況

◇吉野川流域

推進体制

2017年10月に設立された「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」には、有識者、流域市町（徳島市、鳴門市、藍住町）、徳島県・国の関係部局、市民団体、企業、地域関係団体等が参画しています。



吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会の構成

第2回吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

第2回吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会が、2019年1月16日に開催されました。

第2回吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会の概要

開催日時	2019年1月16日（水）15:00～17:00
開催場所	徳島県教育会館 小ホール
議事	(1) 吉野川流域へのコウノトリ・ツル類の飛来・生息状況と関連する取組について (2) 吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク全体構想（案）について (3) 鳴門地区地域ワーキングについて (4) キャッチフレーズについて
主な意見	<ul style="list-style-type: none">・吉野川の阿波市の区域と吉野川の河口干潟がナベヅルのねぐらとして重要であるので、対策が必要である。・コウノトリの営巣地の周辺で、車を停めるところ、農産物を買えるところがあるとよい。・ハス田は民地が多く、道の拡幅は難しい状況。各団体にも協力してもらいながらお金が回る好循環ができればよいと思う。・観察、飲食、産直等ができる場づくりのための事業主を探しているが、農地転用をスムーズにできるのか、地権者の同意が得られるのか、という意見もある。・直売所と連動できればよいのではないかなと思う。・河口先生が作成したコウノトリのポテンシャルマップを見ながら、鳴門の次にどこで地域づくりをしていくべきか、考えるとよい。観光面のターゲット、マーケットをよく考えて観光面での収入の一部をコウノトリ・ツルのために使えるようになるとよい。・観光客に対して、地元が何をできるのか、誰がコーディネートできるのか、地元の住民がコウノトリ、ツルの案内人になったりできるとよいかもしれない。・中期目標に、観光で人を呼び込むといった内容を盛り込めたらよいのではないかな。



地域ワーキング

徳島県鳴門市では、コウノトリが2017年に兵庫県豊岡市以外では全国初の野外繁殖に成功し、2018年も繁殖に成功しており、今後も安定した生息地となることが期待されます。鳴門地区を対象として具体的に取組を推進していくため、地域の課題について検討を行う「鳴門地区地域ワーキング」が設置されました。

第1回鳴門地区地域ワーキングでは、旧吉野川の岸辺の一部を掘削して、コウノトリの採食場所となる湿地やハス田のほか、その場所の環境を代表する生物（着目種）の生息場所（水路・ヨシ原・湿地等）を再生することを目指して、現地視察、意見交換が行われました。

第1回鳴門地区地域ワーキングの概要

開催日時	2018年11月27日（火）9：30～12：00
開催場所	板東南ふれあいセンター
議事	(1) 吉野川流域の生態系ネットワーク形成について (2) 旧吉野川での自然再生事業について <現地視察> (3) 自然再生事業で創出する環境について (4) 創出する環境の維持管理・活用について
主な意見	■旧吉野川の自然再生事業について ・レンコン栽培には水をコントロールできることが必要。 ・湿地については、水深を深くすると鳥が来ないし、浅くすると草が生えるので調整が難しい。 ・地域住民とのコミュニケーションの場を設けて、理解してもらうことが重要。 ・自然再生事業については了承であるが、具体的な目標については今後話し合いを行い、全員がイメージを共有することが必要。 ・地域ワーキングの進め方として、事業実施計画（事業実施に向けた目標や方法を定めた計画）を作成し、地域との合意を得ながら丁寧に進めていく必要がある。 ■創出する環境の維持管理について ・参加者より、ハス田であれば、営農者側で管理を行うことが可能という話があった。 ・湿地、ハス田について管理のシステムを構築することが必要。



銀行の行員を対象とした現場学習会

コウノトリやコウノトリが生息する環境について、地域資源としての可能性を探ることを目的に、地方創生に取り組む銀行（阿波銀行、徳島銀行、JAバンク徳島信連）の行員を対象とした現場学習会が、2018年5月18日に開催されました。当日は、現場体験として、コウノトリの観察やハス田でのレンコン掘りを体験していただいた後に、コウノトリを活用した地域づくりをテーマにグループディスカッションを行い、多くの意見が得られました。

グループディスカッションでの主な意見

- ・「板東南ふれあいセンター」を観察拠点にしてみてもどうか。屋上に望遠鏡を何台か置いてみる、天気が悪い日は屋内でカメラのモニターで見る、巣にいない時はビデオを上映するなど、来てもらった人に何らかの形でコウノトリを見てもらうとよい。
- ・最近の若者は「インスタ映え」という言葉が好きなので、レンコン畑の景色を楽しめたり、コウノトリが観察できるカフェ等があるとよい。
- ・コウノトリには「幸せな鳥」や「赤ちゃんを運んでくる」というイメージがあるので、ブライダルに関連した施設の設置や、赤ちゃんのお守りを作ってみてもどうか。
- ・金融機関としてできることとして、商談会でのPR、ビジネスマッチングが現実的に考えられる。
- ・体験型観光や研修に繋げてみるもどうか。高速のインターから近く、立地に恵まれていると思うので、体験型観光や、都市部の小学生の宿泊訓練のような研修型に来てもらって、レンコン掘り体験等をやってもらうとよい。



現場体験



グループディスカッション

◇幡多地域

シンポジウム

幡多地域での生態系ネットワークの形成ならびに地域活性化に向けた取組意識の向上を目的として、幡多地域生態系ネットワークシンポジウムが2018年1月13日と6月23日に開催されています。

幡多地域生態系ネットワークシンポジウム（第1回）の概要

プログラム

・基調講演

- ①「豊岡におけるコウノトリをテーマとした地方創生の取組～飛んでるローカル豊岡～」
宮垣 均 豊岡市 環境経済部エコバレー推進課主幹 兼 定住促進係長
- ②「全国の生態系ネットワークの取組」
関 健志 公益財団法人 日本生態系協会 事務局長

・地域での取組紹介

- ①「持続可能な里海づくり～多様な主体が協働する海の中の森づくり～」
神田 優 特定非営利活動法人 黒潮実感センター長
- ②「ニタリクジラとホエールウォッチング～人と自然とのつきあい方を考える～」
村上 健太郎 特定非営利活動法人 NPO 砂浜美術館理事長
- ③「トンボ王国の挑戦～暮らしに役立つトンボの保護～」
杉村 光俊 公益社団法人 トンボと自然を考える会常務理事

・パネルディスカッション

「自然と共生する地域づくりのあり方～貴重な生態系を保全し幡多地域の魅力と活力を高めよう～」

【コーディネーター】

岡村 健志 高知大学地域連携推進センター特任講師

要旨

- ・幡多地域の豊かな自然環境（資源）を再認識するとともに、自然と共生した地域づくりの方向性を確認しました。



幡多地域生態系ネットワークシンポジウム（第2回）の概要

プログラム

- ・ 基調講演
「協働を生み出す仕掛けとカタチ～持続可能な開発目標と地域連携～」
梶 英樹 高知大学地域連携推進センター講師
- ・ 地域での取組紹介
 - ① 「魚のすみか はたの暮らし～はたにある環境資源を活かすには～」
山下 慎吾 Sakanayama Lab.
 - ② 「取組を行う魅力と担い手づくり～長続きする仕組みとは～」
浜口 和也 竜串の自然と共生した地域づくり協議会
 - ③ 「四万十ツルの里づくり～ツルと共生する自然環境再生を目指して～」
佐伯 達雄 公益社団法人 トンボと自然を考える会常務理事
- ・ パネルディスカッション
「自然と共生した地域づくりのための協働のかたちを考える」
【コーディネーター】
岡村 健志 高知大学地域連携推進センター准教授

要旨

- ・ パネルディスカッションでは、取り組みによって得られた思わぬ効果や、協働を呼びかける上ではまず相手に何をして欲しいのか自分たちで整理しなければいけないといった意見が出されました。



河川を基軸とした、ツル類に関する生態系ネットワーク形成による生態系の保全と地域活性化に向けた計画の具体化を、鋭意進めているところです。